
Dead Line

R A N

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Dead Line

【Nコード】

N5312T

【作者名】

RAN

【あらすじ】

Do As Infinityの「夜鷹の夢」を元にして。

戦争の渦中に入り、毎日がそれで過ぎていく少年の思い、そして、最後。

サイト、dノベ転載

その日、僕らは夜に起きだした。

眠れないとかそういうことなく、今日は作戦決行のために昼に寝ていたからだ。

そして、僕らは今ある町に向けて、重いエンジン音を出しながら、低空飛行を続け、命令が出るのを待っていた。

細く冷えた三日月が闇夜に浮かんでいる。これから何が起こるのか、そ知らぬふりをして。

攻撃対象の町は地図で確かめてある。

しかし、僕にはその町の音を口にすることはできない。

僕はその町の名を読むことができないし、見覚えもないから、その町の名を知らない。

そして、その方が僕には都合がいい。

そこでどんな人が暮らして、幸せな日々をすごしているのか、人々は何を夢見て日々を生活しているのか。

名前を知ってしまえば、そのことを考えてしまいそうになる。

今夜も、正義の名のもとに、攻撃の命令がくだされた。

僕の真下では、町の命の火が僕らの黒く燃え盛る炎に飲み込まれていた。

言われたとおりに、飛行機の機首をあげ、弾薬庫の蓋を閉め、成功を示す旋回をして基地に戻る。

剣のように長くのびて天にあがる火を僕は見ているが、心には何も入っていない。

僕には関係ないことだ。見てたら……こんなことやってけない。僕は生きるために見ない。

ずっとこんなことが繰り返されると思った。

その日も、威嚇に花火があげられたが、そんなちっぽけな抵抗じや僕らには通用しない。

でも、その花火には、彼らの怒り、嘆き、悔やみ、憎しみがこめられているようだった。

そして、僕らの感情も……。

静かに、僕はそれらを受け入れ始めていた。

空が白み始め、眩しい太陽の光が僕の目を射ぬいたたと同時に、突如機体の正面ガラスが砕ける音とともに衝撃が訪れた。

次の瞬間、僕は胸に鈍い痛みを感じていた。

どうしたか確認するために自分の胸に目をやると、胸から、見たことがある赤い液体が流れていた。

僕が今まで任務のために消してきた人々から流れたものと同じものだった。

意識が途切れそうになりながら、なんとか操縦桿を握り、誰か仲間はいないかと振り向いて声を張り上げた。

しかし、答える声はない。

周りにも、僕の他には誰もいなかった。

みんなやられてしまったのか、それとももう僕らは見捨てられたのか。

だんだん、目に映る夜の月も霞んできた。

僕の目の裏に、大切な人達の顔ががうかんでは消えていく。

母さん、父さん、友人、そして愛しい君……。

もうあなた達には会うことができないのか……。

最後に、一目会いたかった……。

——もし僕が違う国に生まれて、その国が平和だったなら、砂漠が広がる場所ではなく、きっと緑豊かな場所であってほしい。

——そして僕は、死に絶えた土地も、夜の奇襲の後の朝焼けも見ないで生きていけるんだ。

朝焼けの空に、群れからはぐれた夜鷹が一匹飛ぶ。

はぐれてしまった夜鷹はもう群れに戻ることはできない。

そのまま、流れ星になって夜空に消えた。

生きてる僕らはみんな等しく生きている。

みんな等しく、生きる権利を持っている。

そして、同じ血のつながりで、大事なものを育んでいる。

正義だなんだと主張したって、結局はただ血を流しているだけ。

なぜ血を流してでしか決着をつけれないのか。

なぜ血を流さずして理解することができないのか。

結局僕の世界は何も変わっていないかった。

僕は人の長い夢を見てたんだ。

また誰かが、あの紅く燃える火の剣を使って、大地を赤くしていく。

本当は触れることができないはずの火の剣。

それに触れてしまった彼らは、もう止まらない。

そして、禁断の火の剣を手にしてしまうのだ。

もう火傷で感覚がなくなった彼らには、それが危険であることがわからない。

BGM by Do As Infinity ”夜鷹の夢”

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5312t/>

Dead Line

2011年5月31日12時32分発行